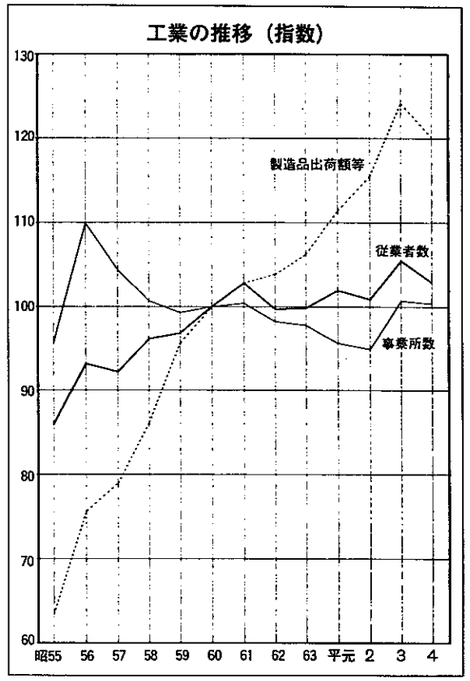
平成4年 工業統計調査結果

出荷額は1,219億2,101万円



工業統計調査は、工業の実態を明らかにするために毎年行われるものです。このほど、昨年十二月三十一日現在で調査した本市の概要がまとまりました。

それによると、市内の事業所数は二百七十三事業所で、前年よりも一事業所（〇・四％）減少。従業者数は五千七百十八人で、百四十四人（二・五％）の減少。製造品出荷額等は一千二百十九億二千百一万円で、四十一億八千五百七万円（三・三％）の減少でした。事業所数、従業者数、出荷額ともに前年より減少しており、景気の減速が数字にも表れています。

事業所数、従業者数、出荷額の推移を、昭和六十年を一〇〇とした指数で表したものが左のグラフです。これによれば、事業所数は一〇〇・四。平成二年まで減少傾向にありましたが、三年に大きく増加。四年はやや減少したものの、昭和六十年の水準に戻っています。

従業者数は一〇二・九。小幅な増減はありますが、全体的には増加傾向にあります。

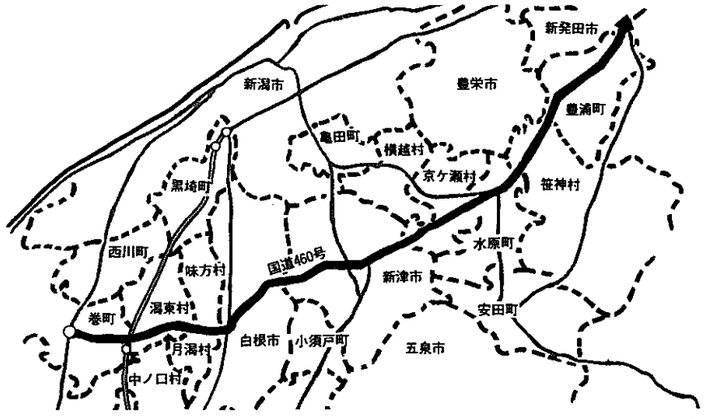
製造品出荷額等は一二〇・一。前年指数を四・一ポイント下回りました。業種別では家具製造業など八業種で増加したものの、食料品製造業や鉄鋼業など十二業種で減少しています。出荷額が前年を下回ったのは、昭和四十一年以降を調べても初めてのこと。他市町村の調査結果でも同様の傾向が見られ、不況の影響が表れた結果となりました。

なお、この調査結果は本市が独自に集計したもので、後日通商産業省が発表する数値と異なる場合があります。

新津白根線、巻白根線が

国道460号に昇格

市内に新しい国道460号が誕生しました。国道に昇格したのは、巻町から新発田市までを結ぶ延長五十八・一キロの県道です。市内では、臼井橋から富月橋まで通過していた主要地方道新津白根線、同巻白根線が、四月一日から国道460号になりました。



同路線については、平成二年七月に本市を含む関係十一市町村で、国道昇格期成同盟会を設立。国・県などの関係機関へ昇格の陳情を行ってきました。

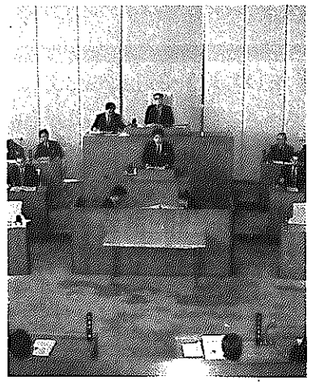
今回の昇格で、市内を通過する国道は、国道8号と合わせて二路線に。今後、北陸自動車道をはじめとする幹線道路への連絡道路として、重要な役割を担う道路となります。

国道460号に関連する本市関係の事業は、現在進められている臼井バイパス事業、臼井橋整備事業、さらに事業採択を要望中の諏訪木バイパスなど。国道昇格により、国道補助率が県道の場合の五五％から六〇％にアップされるため、関係事業の促進が期待されます。市では今後さらに、事業費の増額や新規事業の採択などについて、積極的に国・県に働きかけていくことにしています。

議会の動き 臨時市議会

議長に小野 忍氏 副議長に浦野文一氏

平成五年第三回市議会臨時会が、五月十四日開催され、正副議長や常任委員など、新しい議会の人事が決まりました。また、提案された五議案を承認・可決しました。



議会人事

星野功氏の議長辞任と、小林仁市氏の副議長辞任に伴う正副議長選挙の結果、新議長に小野忍氏が、新副議長に浦野文一氏が当選しました。

また、各常任委員会委員などを選任。総務文教常任委員会委員長に長谷川一栄氏、社会建設常任委員会委員長に五十嵐仁一郎氏、産業企業常任委員会委員長に上杉貞夫氏、議会運営委員会委員長に河内新平氏がそれぞれ選任されました。

議長 小野 忍氏（日の出町・60歳）

副議長 浦野文一氏（松橋・53歳）

承認・可決された主な議案

●白根市税条例、都市計画税条例、国民健康保険税条例の一部改正＝専決処分

地方税法が一部改正されたことに伴う改正です。

市税条例では、市民税の所得割と均等割の非課税限度額が引き上げられます。これにより低所得者層の税負担の軽減が図られます。固定資産税は評価替えに伴う急激な税負担を緩和する処置が行われました。それに伴って都市計画税も改正されました。

国民健康保険税条例は、一世帯当たり四十六万円の課税限度額を、五十万円に引き上げました。また減額の対象となる所得の基準額も引き上げました。

●平成四年度一般会計補正予算（第六号）＝専決処分

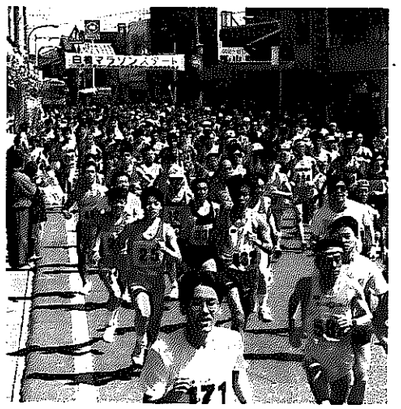
歳入歳出にそれぞれ六千六百三十万円を追加して、予算総額を百一億八千九百八十五万円としました。これは特別交付税、国庫補助金、市債などの確定に伴う追加額などを計上したものです。これらの財源をもとに、土地開発基金への繰出金五千万円を計上しました。このほか水田農業確立特別対策事業基金を活用した、同対策事業費を計上しました。

●白根市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部改正

地方自治法施行令の一部改正に伴う改正です。予定価格が九千万円以上の契約については議会の議決が必要でしたが、経済事情などの変化から、その金額を一億五千万円以上とするものです。

新緑の白根路 480人が力走

—第7回白根マラソン—



抜けるような青空が広がった五月十六日、第七回白根マラソンが行われました。初夏の白根を彩る恒例行事となった白根マラソンも、回を重ねるごとに参加者が増加。今回は県内外から過去最高の四百八十人が参加し、新緑の白根路を力走しました。

午前九時三十分、選手たちは産業厚生会館前を一斉にスタート。沿道では市民が小旗を振りながら選手に声援を送ります。参加選手中、最高齢の中村新作さん（白新町・八十歳）は、五キロの部に出場。年齢を感じさせない元気な足取りで見事に完走しました。

大会では五キロ一般男子の部で高橋正芳さん（魚町）が、昨年に引き続いて優勝したのをはじめ、五キロ中学女子の部で安達みさとさん（白根北中陸上部）が、ハーフ一般男子四十歳未満の部で小池一浩さん（上茨）がそれぞれ優勝。本市勢の健闘が光りました。

結果は次のとおり。（本市関係のみ。敬称略）

（5キロ）中学男子 ⑤穂苅俊史（白根第一中陸上部） **中学女子** ①安達みさと（白根北中陸上部）＝20分23秒 ⑤滝沢恵（新飯田中陸上部） **一般男子** ①高橋正芳（新潟プリズン）＝16分12秒 ③塩田達也（KYO・A・C）

（12キロ）一般男子40歳未満 ②五十島毅（ブルボン駅伝部） ⑤小山信男（白根クラブ）

（ハーフ）一般男子40歳未満 ①小池一浩（白根マラソンクラブ）＝1時間11分40秒 **一般男子40歳以上** ⑤丸山均（白根マラソンクラブ）